

# 19世紀ロシア文学

## SYMPOSIUM

19世紀ロシア文学——あれこれのテキストを含んだり含まなかったりするこの言葉は、様式でも流派でもなく、それでもなお何らかのまとまりとして感じられます。それはあるテキストの群に対して私たちが抱かざるをえない違和感、もっといえば文化的差異の別名でもあるでしょう。この不定形のまとまりを、四散させてしまうのではなく、テキストの生き延びの場所として流用すること、それがこのシンポジウムの目的です。

## という現在

さまざまな文化的差異が生まれては消える泉のような場、その場を探索し、「19世紀ロシア文学」と「現在」とを隔てる境界を問い直すために、いくつもの枠を超えて9本の仕事が集まりました。過去や他者の再構築、正典化の作業にとどまることなく、「現在」の自明性を問う読みの試みです。多くの方にご来場いただき、探索をともにしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

主催：19世紀ロシア文化研究会

企画：越野剛（北海道大学）、毛利公美（北海道大学）、安達大輔（東京大学大学院）  
協力：北海道大学スラブ研究センター

開会 10:30

I. 作家という症状 10:35 - 11:10

\* 久野康彦（放送大学）  
19世紀後半のロシアの精神医学とその発想  
——精神医学者ウラジーミル・チシ（1855-1922）による文豪の生涯と作品の分析を手掛かりに

II. 文学のテキスト／宗教の言説 11:10 - 12:20

\* 小林銀河（日本学術振興会特別研究員）  
ロシアに向けて発信する「日本のドストエフスキー受容・研究」——宗教意識の観点から

\* 望月哲男（北海道大学）  
19世紀ロシア文学におけるイエズス会のイメージ

——昼休み——

III. 視線の政治学 13:20 - 13:55

\* 鳥山祐介（東京大学大学院）  
19世紀前半のロシア文学と『ピクチャレスク』概念

IV. 自己の表象 13:55 - 15:05

\* 山路明日太（北海道大学大学院）  
『現代の英雄』——日付の一致をめぐる

\* 大川良輔（北海道大学大学院）  
自己と他者のまなざし  
——トルストイとゴーリキーの自伝的作品

——休憩——

V. 文化的他者への作法 15:20 - 16:30

\* 乗松亨平（東京大学大学院）  
事実・テキスト・心象地理  
——ベストウージェフ＝マルリンスキーのカフカス表象

\* 坂庭淳史（早稲田大学）  
チュッチェフの作品における「不可解さ」をめぐる——  
19世紀ロシアに見られる、政治思想と抒情詩の「他者」

VI. テキスト性の系譜学 16:30 - 17:05

\* 番場俊（新潟大学）  
19世紀小説と「現在」

司会：越野剛・安達大輔

○終了後、「チムニー本郷店」(03-5684-4970)にて懇親会を予定しています

日時：2005年3月5日（土）

場所：東京大学本郷キャンパス内  
法文1号館2階・215教室

地下鉄丸ノ内線・大江戸線「本郷3丁目」  
または南北線「東大前」下車、徒歩15分

問い合わせ先：

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学文学部スラブ語スラブ文学研究室内  
19世紀ロシア文化研究会  
<http://www.lu-tokyo.ac.jp/~slav/19vek.html>  
シンポジウム専用アドレス：[rus2005lit@mail.goo.ne.jp](mailto:rus2005lit@mail.goo.ne.jp)

